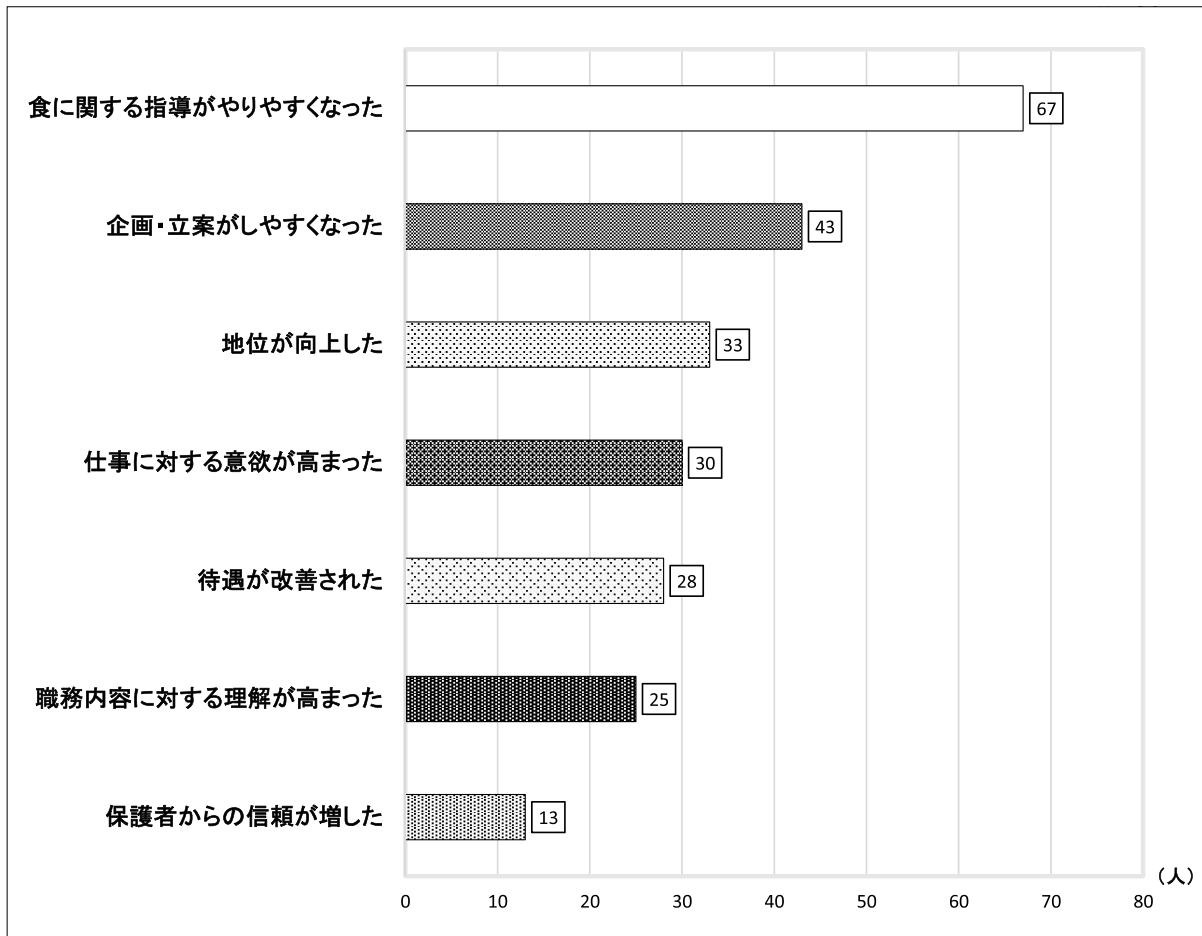


# 〈専門委員会栄養教職員部アンケート調査結果〉

## I 栄養教諭としての活動について

1 学校栄養職員から栄養教諭となって良かったことは何ですか。(複数回答) n = 85



### 考 察

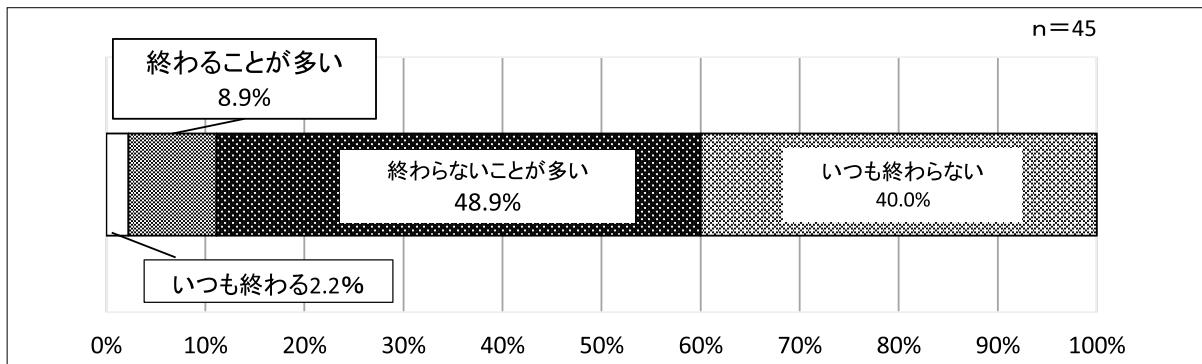
「学校栄養職員から栄養教諭となって良かったこと」についての調査では、主に「食に関する指導がやりやすくなった」と感じている栄養教諭が多い。また、「企画・立案がしやすくなった」「地位が向上した」と感じている栄養教諭が昨年度より増加しており、活躍の場が広がり、食育がより推進しやすい状況になったとがうかがえる。

児童生徒の実態を把握し、毎日の学校給食を生きた教材として活用し、食に関する指導全体計画に基づいた教科・領域を横断した指導や、個に応じた指導を推進できることは、栄養教諭が配置されることの大きなメリットと言える。

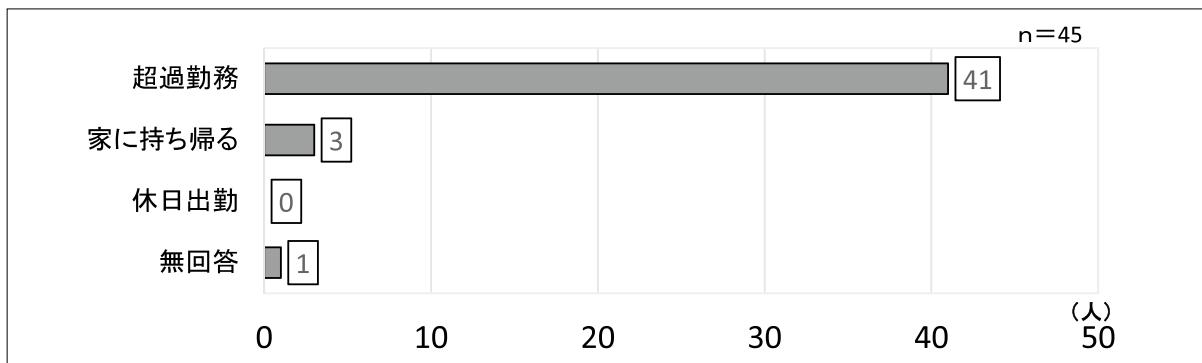
また、学校給食における食物アレルギー対応や、肥満・瘦身・スポーツをする児童生徒への個別指導など高度な専門性へのニーズもますます増加している。栄養教諭としての使命感をもって、資質・能力の向上に努めることが求められる。

## II 学校栄養職員の勤務状況について

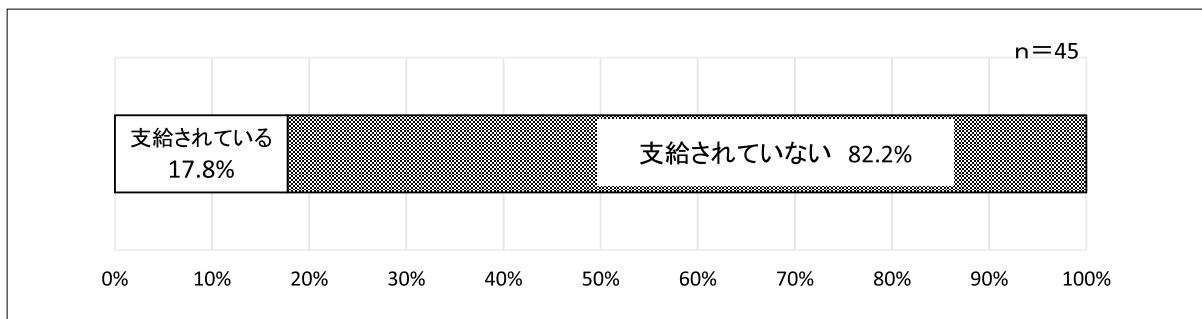
### 1 仕事は勤務時間内に終わりますか。



### 2 勤務時間に終わらない仕事は主にどうしていますか。



### 3 超過勤務手当は実績どおりの手当が支給されていますか。

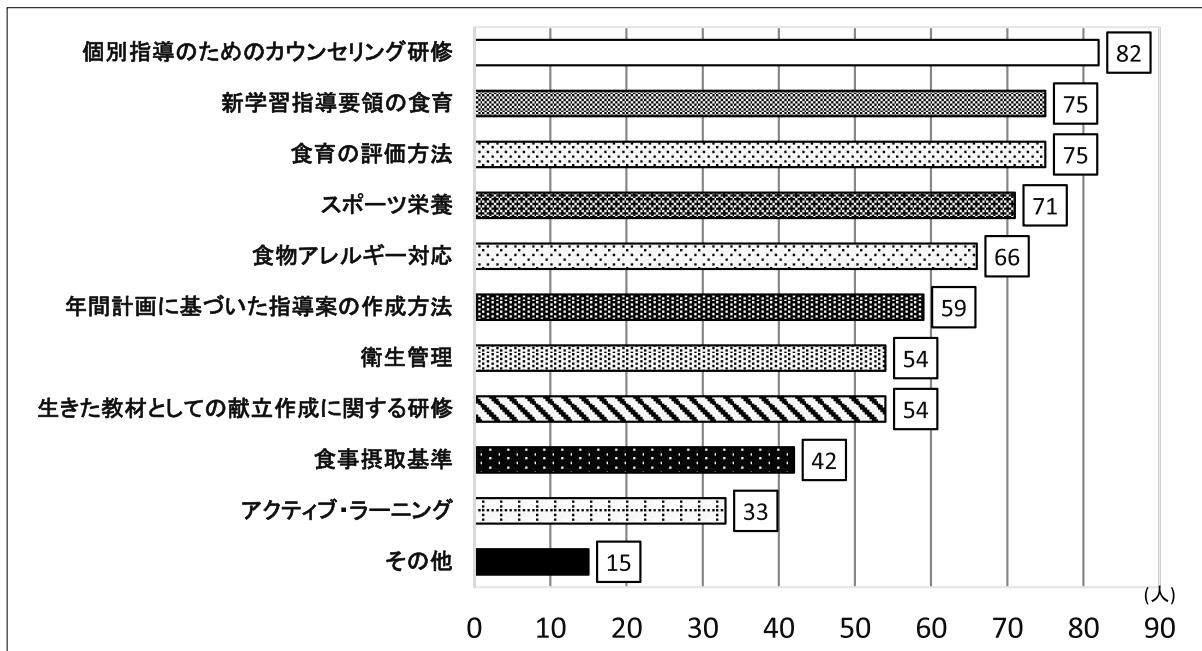


### 考 察

「学校栄養職員の勤務状況について」の調査では、勤務時間内に仕事が「いつも終わらない」「終わらないことが多い」と答えた人は、全体の 88.9% であった。勤務が終わらない理由として、給食関係書類作成や食物アレルギー対応等の業務から、電話・来客対応等の校務分掌、職務内容以外の業務もあげられ、多忙を極めている。勤務時間内に終わらない仕事は、ほとんどが時間外勤務を行っている。「超過勤務手当が実績どおりに支給されていない」と回答した割合は 昨年度の 79.2% から 82.2% に増加している。超過勤務手当の支給については仕事量に見合うように改善する必要がある。

### III 栄養教諭・学校栄養職員の研修希望について

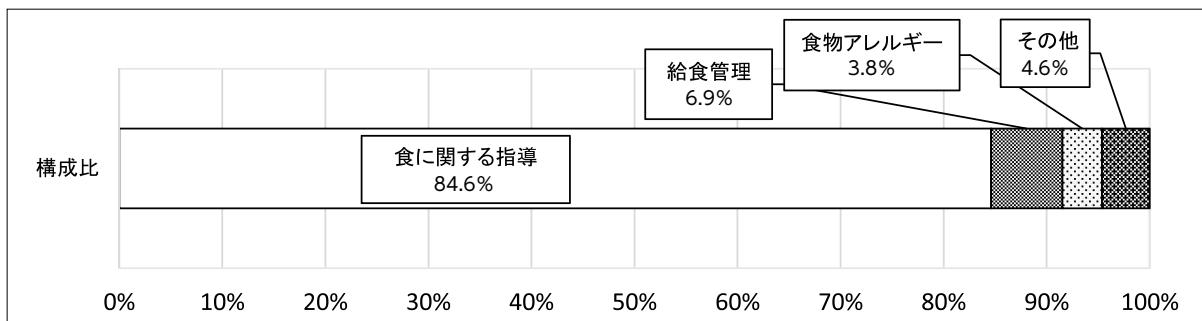
1 どんな研修を希望しますか。(複数回答) n = 130



#### 考 察

「個別指導のためのカウンセリング研修」や「新学習指導要領の食育」、「食育の評価方法」を望む声が多い。また、その他の回答の多くは「ICTを活用した食育」について希望している。「スポーツ栄養」や「食物アレルギー対応」も含め、個別指導に対応するための知識を得ることや、ニーズに合わせたより専門的な新しい知識を得て、食に関する指導の充実を図りたいと考えている会員が多いことがうかがえる。総合教育センターの専門研修等で、これらの研修が行われることが望まれる。

2 内地留学で専門的内容の講座が新設される場合どのような講座を希望しますか。n = 130



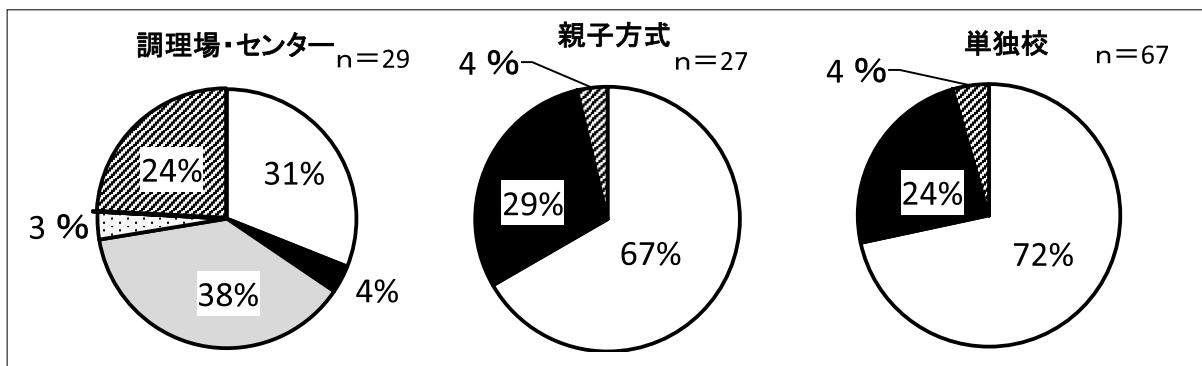
#### 考 察

意識調査では、派遣対象となる栄養教職員のうち、3人に1人が「内地留学を希望したい」と考えている。しかし、研修項目の中に、栄養教諭の職務内容に特化した教科、領域が設置されているとは言い難い状況である。内地留学で学びたい講座として、「食に関する指導」を多く希望している。県全体の食育のレベル向上や、指導的立場の栄養教諭の育成のためにも、教科、領域に栄養教職員の職務内容にあった「食育」を設置し、より研修しやすい体制を整えていくことが望まれる。

## IV 教職員評価制度についての考え方

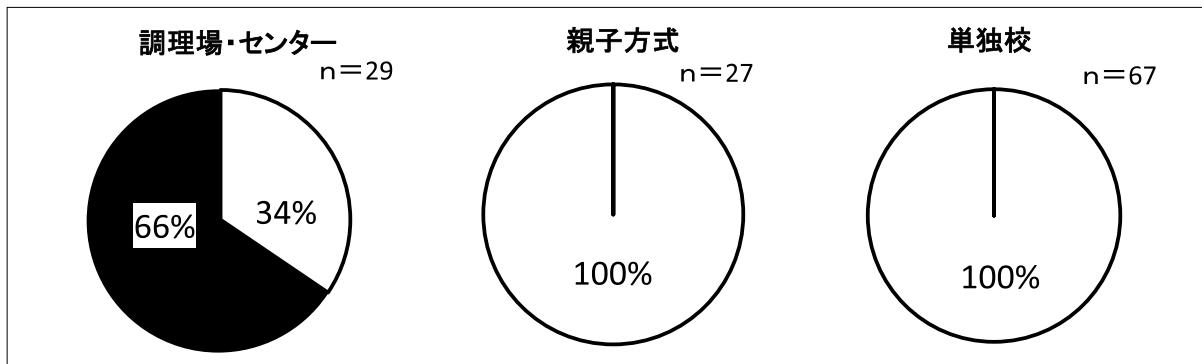
### 1 職務内容について最も適切に評価できる人は誰ですか

	①所属校の学校長
	②所属校の教頭（副校長）
	③所属する調理場長・センター長
	④市町教育委員会で学校給食や食育関係を担当する部署の管理職
	⑤教育事務所で学校給食や食育関係を担当する部署の管理職
	⑥その他



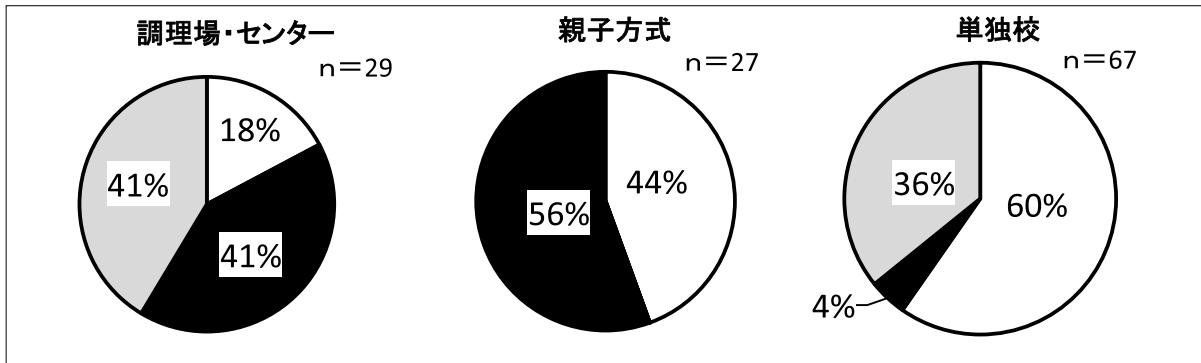
### 2 第1次評価者は誰でしたか

	①教頭（副校長）
	②調理場長・センター長



### 3 評価者は栄養教職員の職務の特殊性を理解して評価したと思いますか

	①はい
	②いいえ
	③分からぬ



アンケート結果から、親子・単独校勤務では学校長や教頭（副校長）、調理場・センター勤務では調理場長・センター長と、いつも一緒に仕事をしている身近な人が職務内容について最も適切に評価できる人と感じている栄養教職員が多いことが分かった。しかし、調理場・センター勤務のうち34%は、本来、第1次評価者が場長等とされている調理場長やセンター長ではなく教頭（副校長）であることが分かった。また、評価者が栄養教職員の特殊性を理解して評価したと回答しているものは単独校では60%いるが、親子方式の56%と単独校及び給食センター勤務の栄養教職員の約4割が、特殊性を理解して評価しているか分からぬと回答していた。さらに、調理場・センター勤務の中には、適正な評価ではないと感じているものが多くみられた。

私たち栄養教職員は、配置条件や職務内容が多種多様である。そのため、教職員評価制度の評価方法が、誰もが納得できるものであること、さらには、より公正・公平な評価となるよう、評価者に対する研修の充実、評価者の職務の理解度を高める必要がある。前述のとおり、調理場・センター勤務の中には、適正な評価ではないと感じている会員が多くいることから、特に、調理場長・センター長が職務に対する理解を深めることが重要である。